

令和5年2月10日
学校健康推進課

令和5年度の区立小・中学校給食用食材費高騰への対応について

1. 主旨

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、急速に進む円安やウクライナ情勢に伴うエネルギー価格・物価高騰により、学校給食の実施にも多大な影響が生じており、区では、令和5年3月分までの学校給食について、学校給食費の値上げは行わず、現行の学校給食費単価の10%相当分を公費負担とする食材費支援を実施している。

食材費の高騰は収束が見えない状況が続いており、令和5年度の学校給食についても、現行の給食費単価ではこれまで通りの栄養バランスや量を保った給食水準の維持が困難になることが見込まれる状況にある。

以上のことを踏まえ、今後も学校給食を安定的に維持・継続していくために、令和4年度に引き続き、学校給食費単価の10%相当分を食材費に上乘せし、無償化の対象とする。

2. 食材費高騰の影響

(1) 価格が高騰している主な給食食材

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の価格との比較は以下のとおり。

品名	単位	令和元年度価格	令和4年度価格 (12月1日現在)	上昇率
給食用パン（各種パンの平均値）	1個	60.15	63.67	5.9%
給食用めん（各種めんの平均値）	kg	481.61	520.75	8.1%
スパゲティ	kg	355.06	428.06	20.6%
ひまわり油	kg	307.50	495.76	61.2%
飲用牛乳	1本	51.09	53.73	5.2%

(2) 給食費との比較

国の学校給食摂取基準に基づき作成した令和3年度の1年間の献立を令和4年12月1日時点の食材価格で実施した場合にかかる1食あたりの単価を算出し、その1食あたりの単価と現行の給食費単価との比較は以下のとおり。（小学校の平均値として中学年をモデルに積算した。）

対象	現給食費単価	令和4年12月の食材価格で計算	価格差	上昇率
小学校(中学年)	272円	299.71円	27.71円	10.2%

3. 対応内容

上記「2. 食材価格高騰の影響」にある状況を踏まえ、令和4年度と同様に現行の給食費単価の10%相当の金額を食材費に上乘せすることとし、無償化の対象とする。また、これまで公費負担としている、学校給食を実施するうえで必要となる保存検食・サンプル食等の代金についても、給食費単価の10%相当の金額を上乘せする。

【公費負担額】

274,229千円（令和5年4月分から令和6年3月分までの食材費等の増額分）

【積算内訳】

(1) 児童・生徒食材費の増額分(10%相当分)

対象	現給食 費単価	増額分 (10%相当分)	児童 生徒数※	公費負担額
小学校(低学年)	244円	25円	12,743人	58,999,900円
小学校(中学年)	272円	28円	12,916人	67,002,068円
小学校(高学年)	294円	30円	12,894人	71,578,320円
中学校(自校方式)	337円	34円	9,468人	59,385,216円
中学校(調理場方式)	313円	32円	2,494人	14,566,944円
※令和4年8月1日時点の予定人数			計	271,532,448円

(2) 保存検食・サンプル食等代金の増額分(10%相当分)

対象	現給食 費単価	増額分 (10%相当分)	公費負担額
小学校(低学年)	244円	25円	1,839,194円
小学校(中学年)	272円	28円	
小学校(高学年)	294円	30円	
中学校(自校方式)	337円	34円	690,506円
中学校(調理場方式)	313円	32円	166,040円
計			2,695,740円

4. 今後のスケジュール(予定)

令和5年 2月～ 学校、保護者周知

4月～ 区立小・中学校給食用食材高騰に伴う食材費等の支援実施